

「ミャンマー難民緊急支援募金」終了のお知らせとお礼

[2019.7.18]



2017年8月25日以降、ミャンマーのラカイン州北部での武装勢力と治安部隊との戦闘行為により、87万人以上の人々がバングラデシュへ避難しました。そして、バングラデシュのミャンマー国境近く、コックス・バザールの難民キャンプには、現在912,485人もの難民が暮らし、その52%を女性や乳幼児を含む子どもたちが占めているとされています（ISCGレポート、2019年5月）。

初動段階で緊急支援を始めた国際NGOの一つである私たちCAREは、およそ2年にわたり、以下のような支援活動を行ってきました。また、世界中のCARE事務所で募金活動を行い、日本でも、個人、企業、CARE支援組織の皆さまから、これまで10,153,142円のご寄付をいただきました。たくさんの皆さまからの心温まるご寄付に、まずは、お礼を申し上げます。

【数字でみる主なCAREの活動】

CAREは、2017年9月以降、シェルター、水と衛生、ジェンダーに基づく暴力からの保護、保健、栄養、そして2つの難民キャンプの運営管理などの分野で支援活動を展開。およそ15万人の難民に直接に支援を届けてきました。また、他の援助機関等とも連携して、国境を越えて避難してきた難民たちを受け入れている人々、170万人超への支援も行っています。

◇シェルター

21,000人以上に、防水シート、マット、ロープ、台所セットを含むシェルターキットを配布しました。また、4,507世帯に、暫定的な仮設住居を提供しました。さらに、モンスーンの時期に備えて、地滑りなど特にリスクの高い地域からの207世帯の移転を支援しました。

◇水と衛生

147,000人以上の人々を対象に、以下の支援を行いました。

- ・ 153個の井戸を設置
- ・ 48のトイレ建設
- ・ 2,094の手洗い場の設置
- ・ 789の女性用入浴スペースの建設
- ・ 15,000世帯に、せっけん、シャンプー、歯ブラシ等の家庭衛生キットを配布

◇ジェンダーに基づく暴力からの保護

12の女性のためのスペース（WGSS：Women and Girls' Safe Space）と2カ所の情報コーナーを設置し、難民たちへの相談サービスを提供。120,830人以上の女性、思春期の女の子たちや、男性たちも利用しています。

◇保健

4つの診療所を設置し、154,000人以上の人々に、無料での問診、投薬、医療機関の紹介等、保健医療サービスを提供しました。

◇栄養

重度の急性栄養失調の子どもたちのケアを行うために、34の栄養センターを設置するとともに、栄養センターで働く500人以上のスタッフの訓練を行いました。

このような、大規模な緊急人道活動を実施することができたのは、日本をはじめ、世界中のCAREの支援者の皆さまのご支援のお陰です。改めて、心よりお礼を申し上げます。

2019年6月末で、日本での募金活動は終了しましたが、CAREでは、今後も引き続き、避難している人々の安全な帰還が実現し、退去できる日まで、彼らがより良い生活を送れるよう支援を続けていきます。支援者の皆さまにおかれましては、これまで同様に、CAREの活動を見守っていただければ幸いです。

「ミャンマー難民の危機は、世界から忘れ去られるようなことがあってはなりません。避難生活を余儀なくされている人々の状況は、今なお、とても不安定で脆弱で、支援を必要としています。CAREとしては、ミャンマー難民の人々が基本的なニーズにアクセスでき、尊厳をもって暮らすことができるように、これからも支援を継続していかねばなりません」(Ram Das, CAREバングラデシュ 副事務所長)